

統合医療における
小動物の皮膚疾患に対する
治療法と症例報告

小動物一般診療での取り組み

上原愛童

あまみ動物病院









皮膚病

当院における治療法

統合医療の目指す方向性

1. QOLの向上を目指し、患者一人ひとりに焦点をあてた患者中心の医療
2. 近代西洋医学及び伝統医学や相補・代替医療従事者による共同医療(真のチーム医療)
3. 身体、精神のみならず、人間を包括的に診る全人的な医療
4. 治療だけでなく、疾病の予防や健康増進に寄与する医療
5. 生まれてから死ぬまで一生をケアする包括的な医療
6. 「尊厳ある死(Death with Dignity)」と、患者だけでなく残された遺族も満足できる「良質な最期のとき(QOD: Quality of Dying and Death)」を迎えるための医療

日本統合医療学会 HPより

当院における皮膚病のアプローチ

- 栄養的アプローチ

食事(ドライフードを避け、ナマ食raw food、手作り食、缶詰を推奨)

- サプリメント

免疫調整、抗炎症、血行改善

腸内フローラのサポート

ビタミン、ミネラル補給、

精神の安定

- スキンケア

- 伝統医療 (漢方、ホメオパシー、ホモトキシコロジー、靈氣)

- オゾン療法、酸素カプセル、近赤外線療法

- 行動学的アプローチ

- 投薬 (短期間最小限)

当院における皮膚病のアプローチ

- 栄養的アプローチ

皮膚への適切な栄養
腸管免疫
アレルギーへの対応

生物学的に適正なフード
×ドライフード

ナマ食raw food
フリーズドライ エアドライ
手作り食 缶詰
食事、素材のローテーション
多彩な食材

可能であれば治療前のアレルギー検査



当院における皮膚病のアプローチ

●サプリメント

免疫調整、抗炎症、血行改善

トリカS、パンフェノンS、LPSDr、
サプレットPRO、R&U
ミドリムシのちから...



当院における皮膚病のアプローチ

● サプリメント

腸内フローラのサポート

口腔内細菌のコントロール

プロバイオティクス、

エスプレス、

プレバイオティクス、

ラフィノース

バイオジェニクス

SOPHIA

発酵飲料

バランスアルファ

吸着剤

ゼオライト(鉱物)、タフロック(火山灰)、キトサン



当院における皮膚病のアプローチ

●サプリメント

不飽和脂肪酸

アンチノール、

オメガサンシャイン



ビタミン、ミネラル、酵素補給

オーソモレキュラ



当院における皮膚病のアプローチ

●スキンケア



当院における皮膚病のアプローチ

●伝統医療

漢方エキス製剤

ホメオパシー、

ホモトキシコロジー、

靈氣



当院における皮膚病のアプローチ



オゾン療法



酸素カプセル



近赤外線療法

当院における皮膚病の統合医療的アプローチ

●行動学的アプローチ

サプリ

ジルケーン、GABA、

テアニン

漢方薬

抑肝散、静心

フェロモン

フェリウェイ

行動療法

T-タッチ

トレーニング



当院における皮膚病のアプローチ

- 投薬 (短期間、必要最小限)

ステロイド(なるべく外用)

インターフェロン γ

抗生物質、抗真菌薬

常在菌、腸内細菌叢に影響...

免疫、内分泌に影響...

免疫抑制剤は使わない

ヤヌスキナーゼ (JAK)1&3

選択的阻害剤は？



当院における皮膚病のアプローチ

- 外部寄生虫の駆虫

皮膚病の原因となっている寄生虫 駆虫薬

皮膚病がある場合の

外部寄生虫の予防 植物系の忌避剤使用



症例報告

The background is a dark blue gradient with a starry space pattern. On the right side, there are several technical diagrams, including a large circular gauge with numerical markings from 80 to 200, and other smaller circular diagrams with arrows and dashed lines.

症例報告 1 (キナコ)

種類

マンチカン 避妊済み雌 1歳11ヶ月令(初診時)

症状

耳介部の痒み

後肢によりかきむしり、紅斑、潰瘍、脱毛。

ステロイド、抗生剤、漢方、サプリ、外用を試したが、痒み、自傷行為が収まらず、第238病日より、エリザベスカラーを常時装着。自傷行動が抑制され、皮膚が改善しカラーを外すと、すぐ掻き壊し潰瘍が形成。



症例報告 1 (キナコ) 第256病日



症例報告 1 (キナコ)
第287病日 3.48KG



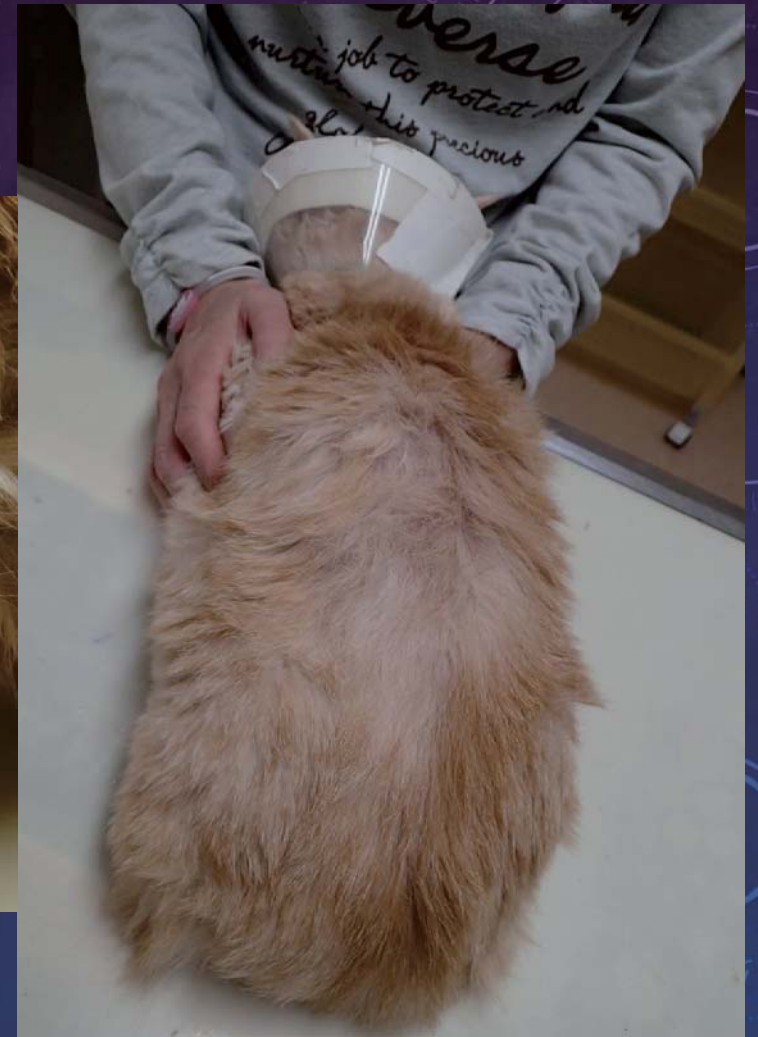
トリカS 2錠 BID



症例報告 1 (キナコ) 第301病日



耳介根元にアクネ...毛包虫感染も疑い、
デクトマックス(ドラメクチン)10倍希釈液
患部に塗布(週1回)



症例報告 1 (キナコ) 第315病日

自傷行為で擦過傷形成
「痒みが残るので、どうにか
してほしい」
コルタバンス
(ヒドロコルチゾンアセポン
酸エステル)
オメガサンシャイン
(不飽和脂肪酸)



症例報告 1 (キナコ)
第322病日



第335病日



脱毛はあるが皮疹は
なく状態改善
自傷行動継続の為、
カラー装着
外用ステロイド漸減

症例報告 1 (キナコ)

第378病日



第392病日



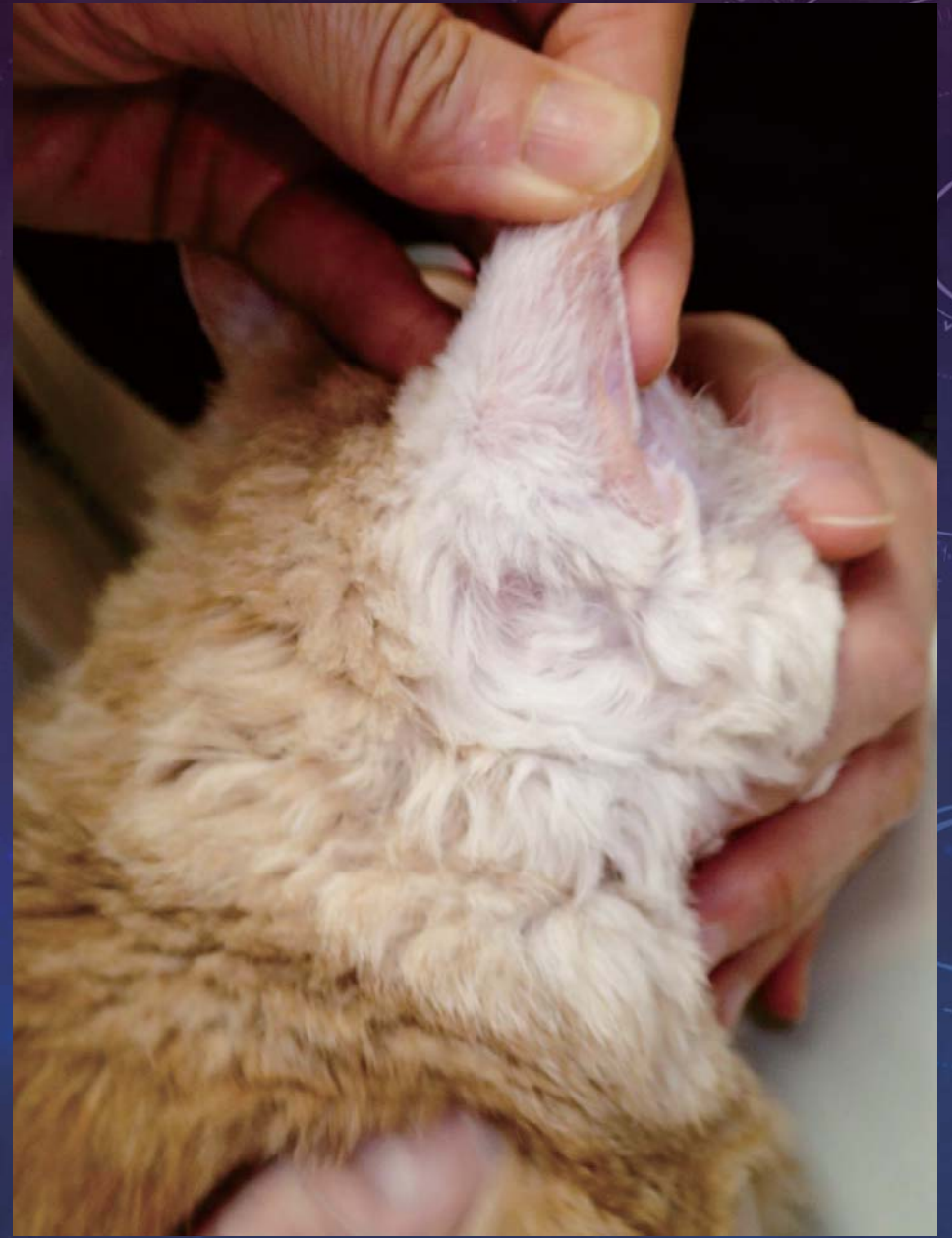
食事をドライフードから、フリーズドライRaw food (Feline Natural Chicken & Lamb Feast)に変更
更なる発毛を確認

日中のみカラー
ステロイドは中止
ジルケーン225mg
追加

症例報告 1 (キナコ) 第427病日



発毛、カラー使用せず維持



症例報告 1 (キナコ)



第287病日



第427病日

症例報告 1 (キナコ)



考察

痒み(?)、自傷行動が中心で、脱毛が長期間改善されなかった。発毛にはトリカS、食事の変更が有効だったが、自傷行動の原因が痒みだけではなく、常同行動も関与したため、ジルケーン(ミルクプロテイン)の併用により完治に至った。

症例報告 2 (エース)

種類

パピヨンとシーズーのミックス

未去勢雄 4歳令(初診時)

既往症

心肥大 NT pro BNP 1113 (参考値 <900)

心電図 R波(3.2mV)↑

拡張期中隔壁厚 (1.13)↑左室自由壁厚(0.83)↑

Ht 59.5%

甲状腺機能低下 T4 0.6 μ g/dl(IDEXX 0.9~4.4)



症例報告 2 (エース)

第1病日 8.12 Kg

顔面(特に目、口の周囲)の紅斑、脱毛
臀部 表在性膿皮症 (Hot spot)

顕微鏡にて、好中球、球菌を確認
アレルギーと細菌感染の併発を疑う

症例報告2 (エース)



症例報告2 (エース)

治療

セフォベシンナトリウム注射(2週間作用)

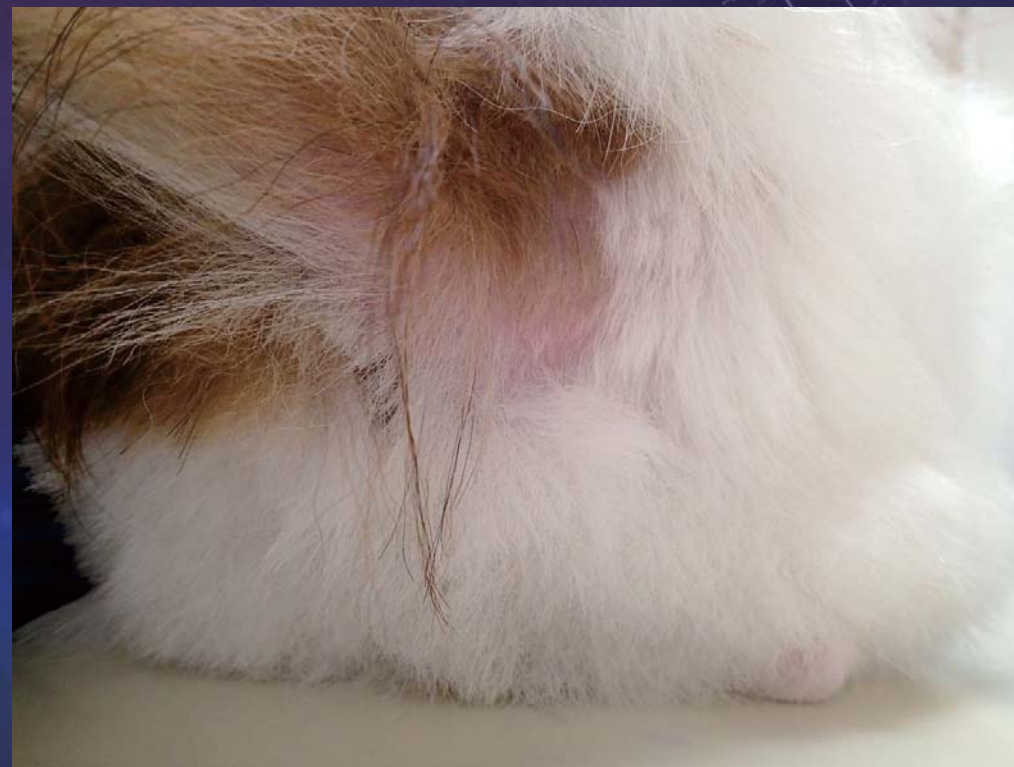
パンフェノン 2錠 BID 2週間

ソフィアアクティブ(バイオジェニック) ½ BID 2週間

プレドニゾロン 1錠 SID 3日間



症例報告2 (エース) 第12病日



症例報告2 (エース)



第12病日

顔面の紅斑、脱毛は改善、臀部の皮膚炎改善
治療

パンフェノンS 2錠BID 2週間

ソフィアアクティブ 1/2BID 2週間

飼い主の希望により医薬品ではなくサプリメントで維持。

第41日以降 パンフェノンSのみで維持

症例報告 2(エース)

第49病日 背部に痂皮形成



症例報告2 (エース)

第49病日 治療

食事アレルギーを疑い、食事の変更を指示

プロテハートシャンプー、パンフェノンS

ミミピュア(オフロキサシン、ケトコナゾール、トリアムシノロン合剤)

を初期に一時的に使用

現在 パンフェノンS、プロテハートシャンプーで良好に維持



症例報告2 (エース)



考察

アレルギーと心疾患を併発

食事の管理とサプリメントで維持

パンフェノンSは、心疾患、皮膚疾患両方をサポートするため、
小型犬にとって使用しやすいサプリメント

シャンプーも同じ成分を使用した プロテハートを併用し、ステロイド、抗生
剤を常用せず、上手にコントロールできた

症例報告 3 (ロビン)

種類

M.ダックスフンド 雄 13歳令(初診時)

5.44Kg

症状

左体側部 皮膚炎

椎間板ヘルニアにより四肢不全麻痺、寝たまま排尿し、
尿による接触性皮膚炎を疑う



症例報告3 (ロビン)



治療
マイクロバブルバス、
トリカキュア (LPS, ピクノジェノール合剤)

症例報告3 (ロビン) 第4病日



症例報告3 (ロビン) 第4病日



症例報告3 (ロビン)

考察

原因の予測できた急性の皮膚炎

原因を除去し、その後はスキンケアだけで、短期間に改善

症例報告 4 (しらす)



種類

- Mix 猫 雌 6ヶ月令(初診時) 3.88Kg

症状

避妊手術後、切開創周囲の腫脹

症例報告3 (しらす)



症例報告 4 (しらす)

治療

LPSDr 1錠 BID 2週間

投与後1週間で改善したとのこと

考察

炎症にLPSは非常に効果的



症例報告 4 (さくら)



術後



投薬5日後



投薬10日後



症例報告 5 (サクラ)
シェルティ 避妊雌
13歳齢



狂犬病ワクチン接種後17日、皮膚の炎症が確認
皮膚に結節性病変形成され自壊、排膿していた
スタンプ標本で、好中球、マクロファージ、赤血球

症例報告 5 (サクラ)



治療

1週間オゾン油塗布にて多少改善したが、腫脹は残っていた

LPSDr 2錠 BID 1週間 追加で改善



まとめ

- 皮膚疾患は多様な原因により多彩な症状を示し、それぞれ個別の対策を必要とする
- 食事管理、サプリメント、スキンケアは単独、または医薬品と併用することで、副作用の少ない、体の治癒力を助ける治療が可能になる。
- 免疫を整える治療により、アレルギーや免疫疾患のような慢性経過を取る疾患の予防となるので、幼児期より、適切な食事、サプリメント、スキンケアのアドバイスを積極的に行っている。

ご清聴ありがとうございました

ご質問は？

